



農業委員会だより

発行 中野市農業委員会

編集 農業委員会だより編集委員会

就任しての抱負

会長 高橋 幸造



▲高橋会長

本年4月2日の中野市農業委員会臨時会に於いて、はからずも会長に就任させて頂きました。改めて、その責任の重さを痛感するとともに、微力ではありますが最善を尽くして、職務の遂行に邁進すべく、心を新たにしておるところでございます。

さて、昨年は、東日本大震災、原発事故、農業面に於いては、大幅な収量低下、価格安、そしてT P P問題等近年になく厳しい年でありました。この冬も大変な豪雪に見舞われ、いろいろな所で被害が出ました。
本年は雨が少なく干ばつで作物の生育等心配されます。当中野市は、申し上げるまでもなく農業が基幹産業であり、果樹、菌茸類に於いては全国

有数の産地であります。

しかし、今日に至っては、農業従事者の減少、高齢化による遊休荒廃農地の増加、農産物価格の低迷、地域農業の抱える問題が山積しております。さらに、T P P参加問題は依然予断を許さない状況にあり、締結されれば日本の農業や地域経済に破壊的な影響をもたらすものであります。今後の動向を注視するとともに、阻止に向けた運動を展開して参りたいと思っております。
農業は国の礎であり、この危機をチャンスととらえ、このような状況を一つでも解決、良い方向に向かうよう努力すると共に、私共農業委員会に課せられた、重大な責務と想っております。

今後、農業委員会として、

新たな自覚と決意をもって中野市農業の発展のために、全力を捧げる覚悟でございます。

今後とも、中野市農業委員会の活動にご理解とご協力をお願い申しあげまして、就任のご挨拶とさせていただきます。

中野市農業委員構成委員名簿

会長	高橋 幸造
会長代理	小林 成雄

○部会構成（議席番号順）

	農地部会	農政部会	振興部会
部会長	池田 好明	北村 忠彦	中村 秀人
部会長代理	小林 健一	坂本 秀穂	堀内 和幸
委員	中村幸次郎	佐藤 則子	阿部 正博
〃	西山 一雄	鈴木 俊彦	江口 栄光
〃	上原 正博	池田 栄一	中島 源
〃	清水 一夫	池田 和敏	長澤 京子
〃	清野 信之	浅野 清	黒崎 順一
〃	高野 良之	町田 茂	永沢 清生
〃	坂原 久幸	武田晋一郎	小林 成雄
〃	小林 正英		町田 利勝
〃	清水 隆一		
〃	高橋 幸造		

農地部会の取り組み

農地部会長 池田 好明

この度、農地部会長に選任いただき厳しい農業情勢の中で責任の重大さを痛感しております。

農業は食糧供給や農地、水、自然環境の保全といった大切な役割を担っています。現状では就農者の高齢化、担い手不足による耕作放棄地が年々増加する中、農業委員会としてもこれといった決めるがないわけです。

先日、農業委員の研修視察

よろしく御願い申し上げます。

今年度の農地部会事業計画は次のとおりです。

- ① 農地法励行の指導徹底
- ② 無断転用の防止活動
- ③ 農地情報システムの適正活用と農地の現況調査
- ④ 無断転用農地と遊休荒廃農地の解消指導に従わない所有者に対して、必要に応じて文書で是正指導の実施
- ⑤ 農地銀行制度の啓蒙と普及活動
- ⑥ 市内、近隣市町村の視察研修
- ⑦ その他必要な活動

農政部会の取り組み

農政部会長 北村 忠彦

今年度「人・農地プラン」の中で、新規就農者に対し就農給付金が出ることになりました。これは日本の農政史上初めてのことであり、そこま

でしなくては若者が農業をやれなくなっている現状にあります。金さえ出せば外国から食糧が買える時代はいつまでも続くものではありません。

『医食同源』という言葉があります。安心安全な食糧

- ① 農政懇談会の開催及び各種懇談会への参加
- ② 認定農業者の普及推進
- ③ 農業者年金への加入推進
- ④ 全国農業新聞の購読普及
- ⑤ 市内、近隣市町村の視察研修



▲シオンシオンまつりに参加

- ⑥ その他必要な活動

振興部会の取り組み

振興部会長 中村 秀人

今年の4月より振興部会長を仰せつかりました。

振興部会は読んで字の如く中野市の基幹産業である農業がさらに振興、発展するための活動を担っており、様々な要因により耕作されなくなつてしまった市内450haもの遊休農地をどのように復元させたらよいか、また農地として再生できた畹には現在の経営に負担をかけない範囲でいかに維持管理していけるかを模索し実現を目指すところでありました。



▲菊芋手入れ作業の様子

誠に地道な活動ではありませんが部員一同、誠心誠意取り組む所存でありますので皆様の一方ならぬご指導、ご協力奇抜なアイデア等を切に願います。今年度の事業計画を以下のようにさせて頂きました。

- ① 農業・農村の振興活動
特に、人・農地プランにも関わる新規就農者総合支援事業への参加があります。
- ② 遊休荒廃地の活用対策
委員会では長年にわたり荒廃地対策品目として菊芋栽培に取り組んでいます。
- ③ 利用権設定の推進を図ります。
- ④ 担い手農家への農地の集積推進に努めます。
- ⑤ 市内、近隣市町村への視察

新任農業委員研修会に出席して

佐藤 則子

7月20日に松本市浅間温泉文化センターにて開催された新任農業委員研修会に出席して来ました。県下22市町村の委員が参加し、県農業会議、県農政部の方々に講師に迎えての研修と活動事例として、朝日村農業委員会より、発表がありました。

その後対策会議を重ね、農地の利用集積を進めています。遊休農地の地権者に管理をお願いし、村の自走式草刈機（有料）の貸出を助成しています。又農協等に除草作業を幹旋しています。さらに、松本ハイランド農協が出資している農業法人「旬農地ホスピタル朝日」が連作障害等で弱った農地や高齢で耕作出来ない農地を預かり、地力回復させて地権者に返す事業を展開し

ており、農地ホスピタルとも連携し、農地の借り手発掘や新規就農者の支援をする等の取り組みがなされているとの発表でした。中野でも連作障害からかアスパラ栽培者が、激減しており大変興味深い発表をお聞きしました。

農業委員として、活動を始めて5カ月程経過しましたが、勉強不足を感懐しており、本日の研修により、農業委員として今後の活動に必要な基礎知識を得て、活動の再確認を致しました。中野市の農業振興に取り組んで行きたいと思えます。

新任農業委員研修会に出席して

堀内 和幸

長野県農業会議主催による新任農業委員研修会は、7月20日松本市浅間温泉文化センターで行われ、今後の活動に役立つ大変有意義な研修会でありました。研修内容の中から遊休農地対策と農業者年金制度について感想を述べます。

全国的に遊休荒廃農地が深刻化している中、長野県の遊休農地面積は全国で5番目に多く、年々増加傾向であります。その理由は高齢化が進み後継者や担い手の不足、農産物価格の低迷、土地条件が悪い等にあります。農業委員会では8月～9月を「農地パトロール強調月間」として、遊休農地の解消に向けて現在取り組みをしているところです。

農業者年金制度は、平成13年に全面改正され全て積立方式になり、農業に従事する方であれば女性や後継者でも加入できます。要件は年間60日以上農業に従事し、国民年金第一号被保険者で60歳未満の方ですので、老後のために加入をお勧め出来る農業者年金になりました。

以上のようなことから私たち農業委員は、農地の利用集積や担い手の育成はもちろんのこと、遊休農地の解消対策や農業者年金の加入推進活動等々、さらなる取り組みをしていかなければと痛感した有意義な研修会でした。

農地の売買なら任せて安心 (財)長野県農業開発公社

※農業開発公社が売買する農地は、農業振興地域の農用地区域が対象です。

農業開発公社は「農業経営基盤強化促進法」に基づいて、県知事から農地保有合理化事業を推進する団体として指定された法人です。農地保有合理化とは、規模縮小する農家の土地を買い入れ、規模拡大する農家に売り渡す再配分を行うことです。

これを活用すると税制上の特典が受けられ、事務手続きは農業開発公社が行います。

農地を売りたい方

譲渡所得が800万円まで特別控除されます。

▼計算例

	通常の売買	農業開発公社の場合
農地売却代金	800万円	800万円
取得費+譲渡費用	40万円	40万円
特別控除額	0万円	800万円
課税所得額	760万円	0万円
税金(20%)	152万円	0万円

※買い入れ協議制度を活用の場合は、1500万円まで

農地を買いたい方

登録免許税 15/1000が8/1000に軽減されます。

不動産取得税の軽減 取得した土地評価額の1/3相当額が控除されて課税されます。

問い合わせ先

市農業委員会事務局

☎ (22) 2111 (内線408)

(財)長野県農業開発公社北信支社

☎ 0269 (23) 0209

農業委員視察研修に参加して

西山 一雄

本年度の農業委員研修は8月20日、21日に伊勢崎市農業委員会と(株)グランパを研修視察いたしました。

伊勢崎市の農業や農業委員会についての感想は、非常に恵まれた地域というか、恵まれた立地条件であり、野菜を中心とした農業経営が盛んに行われています。

耕作地は現在3587畝、農家数3620戸、販売農家は2200戸のうち専業農家は約1000戸で平均耕作面積は1.6畝で平均の所得は



▲伊勢崎市農業委員会での研修

3000〜5000万円、平成12年当時より農家数で600戸、販売農家1300戸の減であり、都に近い現況が伺えます。

伊勢崎市の農業委員会については、選挙による委員が30人、選任による委員のうち農協、土地改良区で2人、議会推薦が4人(全て女性)の36人(定数は37人)の構成で、部会も農地部会と農業振興部会の二部会制で、事務局は12人で一般会計698億円うち農林水産業費12億2075万余円で農業委員会費2116万余円の規模であります。

また、農業者年金については、平成24年2月1日現在での加入者は37人のうち3人が女性ですが、専業農家が1000戸であるので、いかに農業者年金の普及定着が進んでいないかが垣間見られます。

耕作放棄地対策については、伊勢崎市も名案がなく大変厳しいという感がしました。

耕作放棄地対策は、地元医



▲エアドーム式ハウスを視察

薬品企業と連携し、和種のハッカづくりや新名物づくりを目指しています。中野市と同じく、生産部門は、農業委員会が中心に手作業で行っています。草取りや収穫は簡単な作業なのでまだまだ良いと思うが、新たな名物づくりを目指すには大量生産が必要と思うので、機械化が必要であり、商品化についても経費が高くなり、改善の点が多いにありそうです。

翌21日は横浜市の(株)グランパを視察しました。

この施設はエアドーム式ハウスで1棟が573平方メートル

エアドームで、安全で新鮮な水耕栽培の生産システムで、高い生産性、安全、新鮮、環境に優り、オートメーション化された制御システム化されています。直径29センチのドーム内に20センチの円形栽培水槽があり、水槽の真ん中に植えた野菜が外周側へ自動的に移動し収穫されます。1棟のドーム内には常時14300株の野菜が栽培されています。安全で新鮮そして効率の生産システムですが、設備費の高額や耐寒性、耐雪性が中野市に適用するかどうか、北信州の地域にはきびしいですかね。

編集後記

小林 成雄

第四代中野市農業委員会一般選挙が今年3月4日に行われ、第一、第二選挙区とも(定数あわせて23名)無投票当選となり、選任委員8名を合わせ、合計31名で、現在農業委員会の職務を遂行しているところです。

また、農業委員会には農地部会、農政部会、振興部会の三部会があり、本紙にも記載されているように各部会、それぞれ事業計画にそって活動しているところです。

「農業委員会だより」の発行につきましては年二回の発行を予定しておりますので、当日よりご意見等ありましたら農業委員会事務局までお寄せ頂きたいと思っております。

編集委員名簿

- 委員長 小林成雄
- 委員 坂本秀穂
- 委員 小林健一
- 委員 堀内和幸